

報告課題① 第1回テストに向けて（復習プリント）

無彩色の色 P 48 ～

漢字の読み書き

彩色	暖色	寒色	作用	大概	警戒感	沈静	混合	高貴	象徴	害獣	曖昧	舗装	配管
かんしき	だんしよく	かんしよく	さよう	たいがい	けいかいかん	ちんせい	こんごう	こうき	しょうちよう	がいじゆう	あいまい	ほそう	はいかん

環境	疲労	敏感	新緑	趣	陰影	人柄	戯れ	名残
かんきよう	ひろう	びんかん	しんりよく	おもむき	いんえい	ひとがら	たわむれ	なごり

二、学習書の下段に「語句の意味」が書かれている（P 36）言葉もあるが、書かれていない場合は自分で辞書を引くこと。

三、教科書 P 48 「赤は・・・」、「青は・・・」、「二つの色を混合して得られる紫」という表現を見つけること。

四、教科書 P 49 「グレーゾーン」という表現を見つけること。

五、「意外に灰色が多い。」のは「グレーのほうがよい。」からだと考えてみるとどこに注目すればいいかわかるでしょう。

七、教科書巻末「古典参考図録」②③ に出てくる古代色は第1回 A B テストで必ず「漢字の読み書き」問題として出題するので、レポートに自分で選んで書いた十色以外も書けるように、読めるようにしておくこと。

八、自分の選んだ色が好きな理由は、適切な大きさの文字で、二行以上書くこと。大きすぎる文字で二行書いても認めません。

○作品の筆者名を漢字で書けるように、名前を読めるようにしておくこと。

ルリボシカミキリの青 P 16 ～

漢字の読み書き

飛来	諦める	縫う	裁縫	特定	貝殻	脱皮	文様	硬質	希求	憧れ	採集	斑点	高名
ひらい	あきら	ぬ	さいほう	とくてい	かいがら	だっぴ	もんよう	こうしつ	ききゆう	あこが	さいしゅう	はんてん	こうめい

艶やかだ	漆	優美	触角	丹念	証拠	眺める	瞬く	僅かだ	旅程	励ます	瞬間	紛れる
つや	うるし	ゆうび	しゅかく	たんねん	しやうこ	なが	またたく	わず	りよてい	はげ	しゆかん	まぎ

二、レポートには三つしか語句が掲載されていないが、学習書の下段に説明がある語句については覚えておくこと。

三、「主語と述語が整った」という表現に注意すること。（主語・だれ（何）は・・・、述語・どうする（どんなだ）。）

出題に添うと、「誰がどんな状態の中で「息をのんだ」のか」、「何の、どんな様子が「紛れもない」のか」をわかるように書くこと。

四、「縫うように」とは、針と糸が布を縫い合わせていくときにどんな動きをするかを表す「直喩」（たとえ）の表現。

五、「予感」とは「あらかじめ感じる」と。未来の時点でどうなるか、現時点である程度わかり、感じているということ。

六、「澱」とは、「澱粉」の「デン（澱）」である。また、「沈澱」の「デン」でもある。このことから分かるように、水

底に長時間、澱んで動かないものを表す文字である。「書庫」には水はないが、書庫がどんな状態であったかを表す

「隠喩」（たとえ）となっている。

- 七、教科書で筆者自身が「何をしたかったか」自問している部分があるので、探すこと。
- 八、七の問題ともに「教科書から抜き出す」問題は、必要な表現を略したり、不必要な表現を加えてはいけない。
- 九・十、二問とも、適切な大きさの文字で、二行以上書くこと。

この作品は「たとえ」がふんだんに使われた文章である。

※列挙してみることにする。

- ・縫うように
- ・目を皿のようにして
- ・どんな絵の具をもってしても描けないくらい
- ・一気に打ったような
- ・息を殺す
- ・書庫の澱の中
- ・好きであり続けられることの旅程
- ・それは静かに君を励まし続ける。最後の最後まで励まし続ける

○自分で文章を書くときも、たとえを適切に使えると豊かな表現になる。積極的に使うように心がけること。

この作品で筆者が言いたかったこと。

P 19 L 9 ～ 今、君が好きなきことがそのまま職業に通じる必要は全くないんだ。」

○この言葉は筆者が言いたいことであると同時に、国語総合担当者としての私がみなさんに伝えたいことでもある。

**松阪高校全日理数科を不合格になった生徒が、別の高校に進学後、法学部に入学し国家公務員試験に合格し、十年間霞ヶ関で活躍した後、教員になりたい一念発起！通信教育で教員免許を取り、現在英語の先生をしているなどという経歴を持っている人だっています。高校で文系、理系を決めたくっついで、将来は決定するものではありません。**

P 19 L 6 ～ 『万葉集』はレポートの⑩で学ぶことになる。

教科書ではわずかな作品しか掲載されていないが、約四五〇〇首を収める日本で最古で最大の歌集であるので、大学入試で古典を必要とする人は覚えておくこと。

☆フェルメールの絵に使用される鮮やかな青は「フェルメール・ブルー」と呼ばれる（天然ではラピスラズリに含まれるウルトラマリンという顔料に由来）。Wikipediaより。

牛乳を注ぐ女 1658～1660 頃



青を効果的に使った画家は日本にも・・・歌川広重  
「ヒロシゲブルー」と言われた藍色の「富嶽三十六景」

